

倉敷市環境審議会（令和元年度第3回）議事録（要旨）

日 時 令和元年11月26日（火）

14:00～15:35

場 所 倉敷市役所本庁舎3階 特別委員会室

出席委員 池田委員，伊東委員，大畷委員，沖 委員，尾崎委員，
片岡委員，楠奥委員，國枝委員，篠塚委員，島岡委員，
田口委員，竹内委員，中田美保子委員，宮野委員

事 務 局 環境リサイクル局 三宅局長
環境政策部 佐藤部長
環境政策課 行武課長主幹，藤井係長，松下副主任
地球温暖化対策室 塩津室長
環境監視センター 前田所長

1 資料の確認

2 開会・あいさつ

（事務局）

本日は，お忙しい中，令和元年度第3回環境審議会にご出席いただきましてありがとうございます。審議会の開催に先立ちまして，環境リサイクル局長の三宅より一言ご挨拶を申し上げます。

（環境リサイクル局 三宅局長）

環境リサイクル局の三宅でございます。令和元年度第3回倉敷市環境審議会の開催にあたりまして，一言ご挨拶を申し上げます。

本日は，大変お忙しい中ご出席いただきまして，誠にありがとうございます。

さて，本市では，先月，市長をトップとする庁内組織であります環境保全推進本部会議を開き，第三次環境基本計画の策定方針を定めました。これにより，本格的に次期環境基本計画策定に取りかかることとなりました。本計画は，次期を同じくして改定作業を進めております第七次総合計画の環境部門を担う非常に重要な計画でありまして，これから行う基礎調査アンケートにつづき，素案・原案の作成，市民意見の聴取など，様々な作業を進めていくこととなっております。

また、環境審議会に対しましては、来年度、正式に諮問をさせていただく予定でおりますが、委員の皆様には、本日の議題であります「基礎調査アンケートの素案」から忌憚のないご意見とご審議をいただきたいと思っております。

来年度からはさらに詰めた内容でのご審議をお願いすることになります。委員の皆様にはご負担をおかけすることとなりますが、本市環境行政にさらなるお力添えをいただくことを心からお願い申し上げまして、開催の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

本日は、直原委員、高嶋委員、中田和義委員、増子委員の4名が所用のため欠席されておりますが、倉敷市環境審議会条例の規定によりまして、定数の過半数を超えており、本日の審議会は成立していることをご報告いたします。

それでは、これより審議に入らせていただきますが、今後の議事進行につきましては、審議会条例第6条第1項の規定により沖会長をお願いしたいと思います。

沖会長、どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

皆様、こんにちは。令和元年度が始まったと思っているうちに、カレンダーがあと1枚しか残っていないという、非常に月日の経つのが早く感じられます。今日はお忙しいところお越しくださいます。ありがとうございます。今、局長からお話がありましたが、なかなか難しい議題です。これから皆様で議論していただくことになっていくのではないかとと思っております。

今日は、最初に「第三次環境基本計画の策定方針」、それから、皆様から今までいろいろご意見を頂戴しておりました「アンケート」についてのご意見をいただいて、よりよいアンケートの調査ができるようにご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事に先立ちまして、本日の会議の議事録署名委員を尾崎委員、中田美保子委員をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本審議会は公開としておりますが、本日は傍聴される方、また報道機関の方も見えになっておられません。

3 報告

(会長)

それでは、議事に移ります。第三次環境基本計画の策定方針について、まずは事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。

(1) 第三次環境基本計画の策定方針について
(事務局)

それでは、報告(1)倉敷市第三次環境基本計画の策定方針について簡単に説明させていただきます。資料2をご覧ください。

前回の第2回環境審議会の議題として策定方針を(案)の状態でお示しさせていただきましたが、その後、庁内組織である環境保全推進本部幹事会、本部会議を経て、追加・修正した点を中心に説明させていただきます。

スライドページ3をご覧ください。計画策定における基本方針の(1)市民・事業者の意見を反映した計画策定について、本計画では、新たにSDGsの視点のみを加えておりましたが、さらに、防災の視点も取り入れた計画策定とすることとしました。

また、(5)計画全体の再考(見直し)について、審議会委員の皆様や私たち事務局側は認識している事項ではありますが、第二次環境基本計画の進捗状況が目標から離れているものが多いことから、第二次環境基本計画の改善・見直しを踏まえた点も明記すべきとの意見がありましたので、この項目を追加いたしました。

併せて、スライドページ4の(1)計画の位置づけにも、緑色の「第二次環境基本計画」の部分を追加しております。

スライドページ5, 6, 7, 8については、(案)のとおりで変更はございません。

また、前回の審議会で策定支援業務の外部委託についての案をお話させていただいたと思いますが、現在、予算要求の段階であり、策定方針には掲載できておりません。スケジュールなどを含めて、今年度最後の開催となる、第4回環境審議会でご報告できるものと考えております。

なお、本日の審議会後の直近の予定としては、12月上旬に庁内組織としてワーキンググループを設置し、基礎調査アンケートや施策体系(骨格)について議論していきたいと考えております。

以上で、報告(1)について説明を終わらせていただきます。

質疑応答等

(会長)

ご説明、ありがとうございました。それでは、今のご説明を踏まえ、ご意見ご質問ございましたらお願いします。会議録を作成しますので、まずはお名前からお願いいたします。

(委員)

ご説明、いろいろありがとうございました。今の説明の中で、基本方針の中に新たに追加という形で防災の視点をあわせもつ計画策定にするということで、それは大変いいことだと思います。ただ、それに対応したところで、スライドページ5の(2)環境基本計画の範囲の中にも「防災」という言葉を入れた方がいいのではないかと思います。

(会長)

いかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。実は、防災という観点をどういったところから結び付けていこうかと考えている段階ですので、どの範囲に含めるのかも未定の状況で、具体的には掲載しておりません。いただいたご意見を踏まえてもう一度検討して、入れる形、若しくはなんらかの形で範囲の中に含めていきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございました。他には何かご意見ございますか。

皆様がお考えの間に私の方から一つ。スライドページ3の基本方針、(5)計画全体の再考のところですか。目標から遠ざかっている指標を中心に再度検討するというところで、ここが非常に重要なところであると思いますが、どこが中心となってこの原案を作成していくご計画でしょうか。

(事務局)

今のところは、こちらの環境政策課が中心となってやりますが、こちらの方で考えた原案については、庁内組織であるとか、また環境審議会の委員の方にもご意見をいただく場を設けさせていただきたいと考えております。

(会長)

はい、わかりました。それが反映されたら、大変ありがたいと思います。

(委員)

今の話と少し関わるところで、基本方針の(1)でSDGsの視点も入れるということですが、目標から遠ざかっている指標を見直すときに、SDGsの指標も入れていくという形になるのでしょうか。

(事務局)

SDGsの視点については、上位計画であります総合計画でも今回入れる形ですので、そことの整合性を取りながら、見直しも含めまして、SDGsの指標も入れていけたらと今のところ考えております。

(会長)

はい、ありがとうございました。他にご意見、ご質問はございませんでしょうか。とく

にないということであれば、この策定方針で進めていただきたいと思います。

4 議事

(会長)

それでは、次に移ります。

第三次環境基本計画に係るアンケート（基礎調査）について、まずは事務局の方からご説明をお願いします。

(事務局)

それでは、引き続き、説明させていただきます。資料1-1をご覧ください。

この資料につきましては、主に、アンケートの対象及び抽出条件などについて記載しております。

まず、「1. 目的」についてですが、「第三次環境基本計画を策定するための基礎調査として、市民及び事業者にアンケートを実施する」と記載しております。

第二次環境基本計画を策定する際には16歳以上の市民にのみ基礎調査アンケートを実施しましたが、第三次の計画につきましては、倉敷市環境基本条例に「環境基本計画を定めるに当たっては、市民及び事業者の意見を反映できるよう必要な措置を講ずるものとする。」とうたっておりますので、基礎調査アンケートの段階から市民に加え、事業者からもご意見いただくようにしました。

また、本市の環境保全、環境問題や環境基本計画に対する取組み状況や要望など聞くことをアンケートの趣旨としておりますが、後ほど、資料1-2のアンケートの内容（素案）で詳しく説明させていただきます。

次に「2. 対象」についてですが、大きく3つに分けて設定しました。(1) 倉敷市内居住の16歳以上の市民2,500人、(2) 市内小・中学校の生徒合わせて800人程度、(3) 市内に本社、事業所、工場などを置く事業者250社程度とし、合計3,500件程度をアンケートの対象にしたいと考えております。ちなみに、第二次環境基本計画の策定時の基礎調査アンケートは16歳以上の市民3,500人のみを対象に実施しました。

また、(2) 小中学生については、第三次環境基本計画の期間の10年間で今の子どもたちが担う社会であることを鑑み、アンケートの必要性を強く感じ、今回新たに対象とする方針としました。

次に、「3. 発送予定日及び回答期限」についてですが、「※印」の日付が第二候補となります。発送日及び回答期限については、発送前及び発送後に要する様々な準備や要因から、本日の審議会開催の直前まで事務局側で検討しておりました。その結果、できるだけ余裕を持って、よりよい内容の計画を作ることを重視したいと思いますので、第二候補の1月16日に発送、2月7日を回答期限とし、2月下旬頃までには、分析・まとめができるような形で進めさせていただきたいと思います。

続きまして、各対象の抽出条件などについて、ご説明させていただきます。

まず、「4. 市民アンケート（16歳以上）」についてです。アンケート数は2,500人としました。抽出条件については、まず、令和元年9月末現在の倉敷市の全人口に対して、各地区の人口比率を出します。その人口比率を設定サンプル数2,500件に乗じて得られた数字を各地区のサンプル数としました。

また、その他の条件に記載してあります3点の条件を加味して抽出します。今回、ほぼ同じタイミングで、毎年実施している第二次環境基本計画の市民アンケートを送付するので、その送付対象者のみ除く条件にしております。

右のページに移りまして、依頼・回収方法は郵送とします。

次に「5. 事業者アンケート」についてです。アンケート数は250社程度とし、抽出条件としては、(2)に記載のある10のジャンルに分けた事業者で、資本金3,000万円以上としました。できるだけ、幅広く業種を挙げたつもりでおります。ただし、この条件の場合、250社を大幅に超えて抽出される可能性が高いため、その場合、市民アンケートと同様に業種別の比率を出し、250件に乗じる形で得られた数字を各事業者のサンプル数とし、さらに、できるだけ、資本金の多い企業に偏らないよう配慮して抽出したいと考えております。依頼・回収方法は郵送とします。

次に「6. 市内小中学生アンケート」についてです。(1)対象学年及び(2)アンケート数については、小学校は5年生に550人程度、中学校は2年生に250人程度、合計800人程度としました。

これらの学年を選んだ理由は、まず、中学生については、受験生である3年生を除き、自分の意見を言えるであろう学年を選び、小学生についても、ある程度自分の意見を言えるであろう学年をとということで、当初6年生にと考えましたが、中学2年生とあまり年齢も離れていないことから、5年生としました。

抽出条件としては、小中学生それぞれのアンケート数については、市内小中学校を合わせた総生徒数から、小学生総数と中学生総数それぞれの比率を出し、その比率を800件に乗じて算出しております。

また、各地区まんべんなく学校を選び、各学校1クラス、クラス選択は学校側の裁量とする形で実施したいと考えております。特に、小学校については、環境学習に比較的力量を入れている学校があると聞いております。それらの学校を中心に選びたいと考えておりますが、そういった学校だけに偏らないようにしたいと思っております。学年、アンケート数、抽出条件については、いろいろな考え方があって思っておりますので、委員の皆様からご意見いただければと思います。

依頼・回収方法は教育委員会を通じて、学校長に依頼し、庁内便で送付・回収したいと考えています。資料1-1については以上です。

引き続き、資料1-2について説明させていただきます。また、参考資料といたしまして、第二次環境基本計画策定時に実施した市民アンケートをつけております。ここでは、

資料1-2で説明をさせていただきます。

この資料は、アンケート内容の素案となっており、市民アンケート（16歳以上）、事業者アンケート、小中学生アンケートの順番にまとめております。

1ページ目をお開きください。

「市民アンケート（16歳以上）」の全体の構成としては、まず、目標・環境配慮指針などの策定材料にするために、環境保全についての一般的な考え方や取組みについての設問を最初に設定しました。次に、一般的な考え方と第二次環境基本計画がどのくらいリンクしているかを知るために、第二次環境基本計画の項目についての設問を設定しました。第二次環境基本計画の取組みに対する満足度や行政に力を入れてほしいことについての設問を入れております。最後に、第三次環境基本計画策定に必要な材料を集める設問を設定しております。

それでは、アンケートの具体的な説明をさせていただきます。問1から問3は、アンケート記入者の性別、年齢、居住地域について聞く内容になっております。

2, 3ページをお開きください。まず「環境問題について」と題しまして、問4に関心のある環境問題についての率直な意見を聞く設問を設定しました。次の問5では、実際行っている環境保全への取組み状況を聞く設問を設定しました。問5の設問の項目については、第二次環境基本計画の13の分野別目標をベースとし、作成しております。

なお、問5の項目については、毎年実施している第二次環境基本計画の市民アンケートの内容に近い質問がありますが、この機会にもう一度幅広くご意見を聞きたいと思っております。

問6に移ります。倉敷市の環境資源で特に好きなどころ、大事にしていきたいものを聞く設問を設定しました。これは、問4, 5では、どちらかというところ、環境を良くするための問題意識や行動を聞いているのに対し、逆に倉敷市の環境資源で良いところ（好きなどころ）を挙げていただくことで、市民が望む、今後も守るべき環境資源を計画に反映したいと思っております。

次に、「第二次環境基本計画について」と題しまして、問7では、まず、第二次環境基本計画の認識度を聞く設問を設定してみました。この設問によって、地区別、年齢別の傾向を分析することで、第三次環境基本計画の周知方法や内容、見せ方の検討材料にしたいと考えています。この設問については、6ページで環境に関する情報をどこから得ているかを聞いている問11の設問とも合わせて分析したいと考えております。

続きまして、4ページをお開きください。問8では、第二次環境基本計画の取組みに対する満足度と、そのうち今後も行政に力を入れてほしいと思う項目を聞く設問を設定してみました。ここまでの設問で、市民がどんな環境問題に関心をもっていて、実際どのような取組みをしているのかを調査することにより、第二次環境基本計画の目標などの必要性、継続性、重要性などを計りたいと考えております。

なお、この問8の設問項目につきましても、問5の項目と同様に、第二次環境基本計画

の市民アンケートに似たような質問がありますが、この機会にもう一度幅広くご意見を聞きたいと思って設定しております。

次に、5ページをご覧ください。「第三次環境基本計画について」と題し、問9-1では、このタイミングで、めざすべき姿、望ましい環境像について、市民に考えを聞く設問を設定しました。民意を反映した環境像を設定するためには、この段階で聞いておかなければ、基本的な目標設定に影響すると考えましたので、ここで設定しております。

なお、見直した方がよいと答えた市民に対しては、キーワードをお聞きして、今後の環境像を見直す場合の材料にしたいと考えております。

問10では、今回新たに計画に取り入れるSDGsの認識度について聞く設問を設定しました。この設問で、計画の中での表現や周知方法の検討材料にしたいと考えております。

問11は環境に関する情報源を調べることにより、計画の周知方法やその後の進捗管理の手法の基礎データとしたいと思い、設定しました。

問12については、次期環境基本計画の内容を少しでも、市民に抵抗なく知ってほしいと思い、基本計画に愛称をつけたいと考え、この設問を設定しました。例としてあげているものは少し硬い表現となっておりますが、もっと柔らかい親しみのある愛称を市民の方を考えていただきたいと思っております。

最後の問13では、なんでもいいので環境に関するご意見をいただければと考えています。この設問は、数値では見えない情報が得られると思ひ、こちらとしても重要視している項目でございます。以上で、「市民アンケート（16歳以上）」の説明を終わります。

続きまして、7ページの「事業者アンケート」について説明させていただきます。

基本的には、「環境問題について」、「第二次環境基本計画について」、「第三次環境基本計画について」というように、先ほどの市民アンケートと同様の構成にしております。ただ、聞き方、項目については、全体的に一個人に聞くのではなく、企業としてお答えいただくような表現にしております。

それでは、アンケートの具体的な説明をさせていただきます。

8ページをお開きください。まず、問1から問4として、業種、従業員数、所在地などについての設問を設定しております。

次に「環境問題について」ですが、問5については、市民アンケートと同様の設問としておりますが、8ページから10ページにかけて、問6「企業の環境への取組み」として、市民アンケートよりはつつこんだ内容にしております。

隔年で実施している第二次環境基本計画の企業アンケートでは、問6-1や問6-2のような内容については、まったく聞いていませんので、取組み実態や取り組んでいない理由を聞くことで、次期環境基本計画において企業に取り組んでほしいこと、さらには、行政として対応すべきことを検討する材料にしたいと考えております。

次に、10ページ、11ページをお開きください。「第二次環境基本計画について」ですが、問7として、市民アンケートと同じく、第二次環境基本計画の認識度を聞く設問を設

定しました。更に、あまり計画の内容を知らない事業者に対しては、どうすれば、内容を知らせてもらえるか、具体的な方法を聞く質問も設定してみました。

問8は、市民アンケートとほぼ同じ内容ですが、市民アンケートと大きく違うのが、表の右端の列において、市民アンケートでは、「行政に力を入れてほしい項目」を選んでもらうのに対し、事業者には、事業者として「重要だと思う項目」を選んでいただくように設定しました。これは、事業者自らが率先して環境保全に取り組んでいただきたいという思いから、この表現にしました。

次に、12ページをお開きください。「第三次環境基本計画について」ですが、問9で、市民アンケートと同じく、SDGsについて聞いております。ただ、事業者に対しては、すでに取り組んでいる事業者もありますので、どの目標について取り組んでいるのかを聞くことにより、環境基本計画の中で表現や施策、目標との関連性などの検討材料にしたいと考えています。なお、今回資料のレイアウトの関係で、掲載しておりませんが、アンケート送付時には、SDGsの17の目標マークを表記する予定です。

問10、11については、市民アンケートと同じ内容にしております。

続きまして、13ページの「小中学生アンケート」について説明させていただきます。

小中学生アンケートにつきましては、市民アンケート、事業者アンケートとは異なる構成にしており、身の回りの環境に関する考えや行動について聞く設問を中心に構成しています。

それでは、アンケートの具体的な説明をさせていただきます。

13ページをご覧ください。まず、「学校名」とありますが、ここでは、小中学校の区分のみ聞きたいと考えており、続いて、学年、性別の記載をしていただこうと思っております。

14ページ、15ページをお開きください。問1として、一般的に関心のある環境問題を聞き、問2で、実際身のまわりの環境をどのように感じているか聞く設問にしております。

16ページ、17ページをお開きください。問3として、問2に引き続き、実際、どのような行動をしているか具体的で分かりやすい事例を挙げ、また、問4、5では、行動していない理由や、どうすれば取り組めるのかを聞く設問を設定しました。

18ページをお開きください。更に、問6では、問3、4、5を受け、どのようなものが大切であるかを聞く設問を設定しました。

問1から問6の一連の設問を聞くことで、小中学生にも目を向けた施策や環境配慮指針を策定したいと考えております。

19ページをご覧ください。問7では、市が現在実施している環境に関するイベントの参加や認知状況などを聞くことで、広報や周知方法などを検討する材料にするため、この設問を設定しました。

最後に、20ページをお開きください。問8として、市民アンケートでも同じような内

容を聞いています。子どもたちにも倉敷市の良いところ、好きなどを挙げてもらうことで、子供たちが望む、今後も守るべき環境資源を計画にも反映していこうと思ひ設定しております。なお、市民アンケートで使用している「環境」や「環境資源」という言葉を使わなかったのは、子供たちに自由に書いてほしいと考へ、「倉敷市の好きなどところ」という表現にとどめています。

そして、問9では、16歳以上の市民アンケート同様に、子どもたちの柔らかく、想像性に富んだ考へ方も取り入れたいと思ひ、愛称、キャッチフレーズを聞く設問を設定しました。

理想としては、最終的に策定した計画を市民全員に理解してもらい、取り組んでもらいたいのですが、市民全員に計画を見て、理解してもらうことは無理だと認識しています。その中で、いかに生活の中で自然に取り組んでいただけるか、見せ方や策定後の進め方を踏まえて計画策定しなければならず、そこが行政のやるべき重要な仕事の一つだと考へています。

そのためにも、基礎調査アンケートは非常に重要なものだと考へておりますので、どうか様々なお立場やご視点でご意見をいただければと思ひます。

以上で議事（1）についての説明を終わらせていただきます。

質疑応答等

（会長）

はい、どうもありがとうございます。アンケート項目を対象者別にご説明いただきました。何かご意見はございますか。

（委員）

ご説明、ありがとうございます。内容についてまず一つ。今、環境関係で大きな話題になっているのが、海ごみから発生した脱プラスチックをどうするのかという視点だと思います。このアンケートの中にもいづらか海ごみや脱プラスチックは書いてはありますが、脱プラスチックに焦点をあててもう少し明確にした設問を入れてみてもいいのではないのでしょうか。

また、もう一つ。パリ協定等もあつて温暖化の関係からカーボンマイナスという視点がかかなり重要なものとなっています。実際、高校ではカーボンマイナスの視点での研究、活動が進んでいます。これからの時代は、市民や企業を含めて、カーボンマイナスの視点での取組みを意識してもらうためにも、明確に提示してあげた方がいいと思ひます。

それから、アンケートの聞き方についてですが、市民アンケートの問5の取組み状況を聞いている設問がありますが、ここも企業アンケートと同じように取組みの程度に差をつけた聞き方をした方が有効にデータを使えるように思ひます。同様の視点でいくと、SDGsに関する設問で、市民アンケートでは知っているか、知らないかだけを聞いています

が、企業アンケートと同じように、知っている人に対しては一步踏み込んで、SDGsのどこに関心があるのかを聞いた方がより有効性があるのではないかと思います。

また、小中学校のアンケートでは、地域を聞いていませんが、地域性というものはあると思うので、地域を聞いたうえでアンケートを分析、解析する方が、より有効性があるのではないかと思います。

(会長)

ご回答をお願いします。

(事務局)

ありがとうございました。まず1点目の脱プラスチック、カーボンマイナスについては、どのような表現になるかわかりませんが、考えさせていただきたいと思います。2点目のSDGsについてですが、いただいたご意見を踏まえてアンケートに加える方向で検討させていただきたいと思います。最後の、小中学校の地域の件ですが、現段階で大体この辺りの地区にしようかなという案はありまして、基本的には8地区。倉敷、水島、玉島、児島、庄、茶屋町、船穂、真備のいずれの学校にも聞こうと思っています。ただ、その地区に1校だけというのは好ましくないと思っておりますので、広い地区、例えば倉敷地区、水島地区、児島地区については、まんべんなく地区を選んでアンケートを実施したいと思っております。先ほどの学校の地区名を書くことについても、検討させていただきたいと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。他に何かございませんか。

(委員)

3点ほどお伺いしたいことがあります。まず、アンケートの対象者についてですが、市民をランダムに選ぶということで、障がい者の方が対象者になった場合の対応をどうされるのか、何か対応策を考えられているのかどうかの一つ。紙ベースでアンケートをしますと思いますので、例えば、視覚障がい者や筆記ができないような方が対象になった場合にもアンケートに回答できるように何らかの対応をしていただきたいと思います。

それから、抽出条件のところ、外国人を含めないとなっておりますが、おそらくアンケートを多言語化するのが難しいのかなと思うのですが、環境ということであれば、倉敷市に住んでいるすべての人に影響してくることですし、特に今回は防災という視点を入れるということですので、真備の豪雨災害のときにも外国の方にいかに危険を伝えるかという点が問題になりましたので、むしろ外国の方の視点を取り入れる必要があるように感じます。例えば、外国の方を対象にした説明会を1回ぐらい開催するなど方法はあると思いま

すので、なんらかの形で外国の方の意見も取り入れていただきたいと思います。外国の事情と外から見た倉敷市の取組みについての意見も取り入れることにつながると思います。

最後に、今回、小中学生を対象にアンケートをするということで、アンケート結果、市全体の小中学生の現状をフィードバックしてあげることで、自分たちと同世代の人たちが環境に対してどう思っているのかを確認でき、新たな環境学習につながるのではないかと思います。学校向けの説明会や環境イベントとして計画策定の中でしていくこともできると思いますので、少し考えていただければと思います。

(会長)

どうもありがとうございました。いろいろ新しいご意見がございましたが、いかがでしょうか。

(事務局)

参考になるご意見をありがとうございました。1点目の障がい者に対する対応ですが、具体的な対応策を考えていないのが現状です。再度、事務局で具体的にどうするのか、対応策を検討したいと思います。2点目の外国の方へのアンケートですが、確かに多言語化しないといけないのが一番のネックであることは確かですが、外国の方も市民の一人ですので、説明会を実施するなど、なんらかの形で意見を聞くことができるように検討したいと思います。それから、小中学生へのアンケートのフィードバックについてですが、実施する方向で検討したいと思います。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。ご検討いただければと思います。

先ほどのお話を伺っておりまして、小中学生へのアンケート結果のフィードバックもいいですが、小学生、中学生に携わっている先生方にも、何か反映させていただくような形の方がさらにいいのではないかと思います。ご検討ください。

他には何かございますか。

(委員)

市民アンケートと事業者アンケートのやり方が若干違うと理解したのですが、市民アンケートの場合は人口比率よりサンプル数を出して、そのサンプル数に対してアンケートを依頼する。一方、事業者アンケートの方は、この書き方であると、「250社を超える場合は」とありますので、それ以上の事業者にアンケートを出して、回答数に対して250社を超えていなければいいのかなと認識をしました。そういうやり方ができるのであれば、市民アンケートについても事前にサンプル数で切るのではなく、多めにアンケートを出して回答数がサンプル数を超えた場合にそこから無作為に抽出するというやり方をすれば、

サンプル数をしっかり確保できると思います。

今回のアンケートで、市民と事業者でアンケートのやり方を変えないといけないのか、その辺りを教えていただけたらと思います。

(会長)

はい、ご回答をお願いします。

(事務局)

ありがとうございます。企業アンケートの抽出方法ですが、まず庁内のデータベースからこの抽出条件に合うものをすべて抜き出します。その抽出したものの中から資本金や地区が偏らないように250社を抽出したいと考えております。

(会長)

はい、よろしいでしょうか。他にございますか。

(副会長)

全体的な印象ですが、環境問題といったときに、環境そのものについてはもちろんですが、人の健康への影響が重要だと感じます。このアンケートの内容からは人の健康問題についての項目が抜けているように思います。有害化学物質が環境にあることが問題ではなく、人の体に入ってくることが問題であって、その辺りの聞き方をもう少し検討する必要があるのかと思います。それから、環境問題といったときに屋外の話がほとんどですが、事業者アンケートもありますので、例えば労働環境はどうなのかといった屋内環境にも目を向けることも重要なのかと思います。環境問題の出発点とされています国連人間環境会議の人間環境宣言でも、屋内環境、労働環境について言われていたと思います。それを環境基本計画の範囲に含むのか、どうしたらいいのか、具体的な方法はわかりませんが、そういう印象を受けました。

(会長)

ありがとうございました。ただ今のご意見について、いかがでしょうか。

(事務局)

ご意見、ありがとうございます。人の健康問題にも着目した方がいいとのことですが、そこまでの視点を持っていないというのが現状でございます。こちらは検討させていただきたいと思います。次の、屋内環境につきましては、労働環境となるとどう計画に結び付けていけばいいのか、すぐには思い浮かばないという状況ですので、こちらは再度考えてみたいと思います。確かに、アンケートの内容を見ると、屋外にばかり着目しています

ので、屋内環境について再度検討させていただきたいと思います。

(会長)

はい、ご検討いただけるということでお願いします。他には何かございますか。

(委員)

先ほどの意見につながるところになりますが、地域における人との絆、つながりといった心の環境が、防災の点においても、また伝統的な歴史文化の景観づくりなどきれいな環境を作っていくにあたって重要になってくると思います。アンケートの中に人の絆、つながり、無形の伝統文化などの、無形資源について聞く項目があってもいいように思いますが、どうでしょうか。

(会長)

いかがでしょうか。

(事務局)

アンケート項目の中に、先ほど言われたような表現では聞いていないのですが、景観という点では入れております。無形文化財も含めて、どういう形で具体的にアンケートに載せていくか、市民の方にわかりやすいように、表現の仕方も含めてお時間をいただきたいと思います。

(会長)

はい、ありがとうございました。メンタルの部分も入ってくると、どこで線引きをするのか、なかなか難しいところです。また、防災という視点がどの項目にも入っていますが、そのつながりについてどちらを重視して皆様にお聞きするのか、そのところに先ほどのメンタルの部分、心の絆が関係してくると思います。どのような区分がいいのか、再構築していただく方がいいのかもしれない。

(委員)

アンケートの数について、人口比率に対して2,500人は少ないように思えるのですが、今回のアンケートが市民の基礎調査という点からすると、一般的なアンケートの数としては妥当な数字だと思っています。これはこれとして貴重なデータを取りながら、意識を高く持っている人もいると思うので、例えば市のホームページでアンケートを取るなど、参考データとして、広く一般に投げかけてみるのもいいのかと思います。

(会長)

お願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。実は、当初、電子媒体を使用してのアンケートを考えていたのですが、このアンケートと同じ内容のものをしないといけないと思っていたので、回答にかかる時間も量も膨大だったので、やめました。何か意見をいただく必要性があれば、先ほど言われたようにこのアンケートとは別に、必要な情報について電子媒体を使用して収集するという方向も検討したいと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。やはり、このアンケートに漏れた方の意見を聞きたいと思いますよね。そういった意味では、電子媒体を使用してのアンケートもうまく活用するのもいいかもしれません。他にはございませんか。

(委員)

次期環境基本計画にSDGsや防災の視点を入れていくということで、アンケートの中にSDGsの項目はありますが、アンケートの中のどの項目をどう防災につなげていくのか、教えてください。

(会長)

お願いいたします。

(事務局)

実を言うと、具体的なことはまだ考えられていないのが現状です。防災を入れるということで策定方針は決まっております。この後に様々な部署の職員から構成するワーキンググループを立ち上げる予定ですが、その中でこちらが考えた原案をもとにいろいろな意見をいただいて、どういう形で進めていくか、考えたいと思っております。

(委員)

それでは、防災に関しては、このアンケートにプラスして別に案が出てくるということでもよろしいでしょうか。

(事務局)

今のところ、アンケートとしては考えておりません。実際の計画の中身、施策体系や施策であるとかに、具体的にどう絡めていくかをこれから作り上げていこうかと思っております。

ます。

(委員)

はい、わかりました。防災につきましては、他のところでもアンケートをたくさん実施しておりますので、それらの結果を踏まえるようにお願いします。

(会長)

はい、ありがとうございました。他にはございませんか。

(委員)

今、防災の原因が単なる自然災害ではなく、気候変動とか温暖化とか私たちの暮らし自体が気候を狂わせて災害を引き起こしていると言われていています。今回のアンケートの中で温暖化などの項目はありますが、自分たちの生活が温暖化に関わっているということ、それが原因で災害が起こっているということが、うまく伝わるような表現にした方がいいと思います。自分たちの生活と災害は別の問題ではなく、自分たちの環境づくりが防災につながるということを伝えるように表現を工夫したらいいかと思います。

(会長)

はい、お願いします。

(事務局)

ありがとうございます。これを一言で表すのは難しいと思っております。あくまで私個人の意見でございますが、説明の中で何か言葉を加えさせていただけたらと考えております。検討させていただきます。

(委員)

そうですね。冒頭のところでもいいかもしれませんね。

(会長)

はい、ありがとうございました。他には何かございませんか。

(委員)

アンケートの中身についてですが、小中学生アンケートにある環境イベントに関する「問7」の設問が市民アンケートにはありません。市民アンケートの対象が16歳以上ではありますが、小中学生の親世代、祖父母世代が回答することと考えれば、市民アンケートにも同様の設問を追加してもいいのではないかと思います。どのような環境イベントに連れ

ていきたいかという大人の視点と、どのような環境イベントに関心があるのかという子ども視点とがわかると思います。アンケートの設問を増やすことになるのですが、少しご検討いただけたらと思います。

(会長)

いかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。アンケートの量の問題もありますが、大人世代の考え方、子ども世代の考え方という視点がなかったので、検討させていただきたいと思います。

(会長)

はい、ご検討いただければと思います。他にはございますか。

では、私の方から非常に簡単なことではございますが、満足度を聞いている項目（市民アンケート、事業者アンケート問8）で「どちらとも言えない」という選択があります。この選択肢ではなく、「やや満足」「やや不満」の方が回答者の意思を反映していると思いますが、どうでしょうか。回答する立場で考えたときにいかがでしょうか。

(委員)

無記名でのアンケートだとしても、やはり心情的に「悪い」とはなかなか回答できないと思います。確かに、いつそのこと「どちらとも言えない」という選択肢をやめて、「満足」か「不満」か、ずばり聞くという方法も一つあるのかと思いました。あまりよく思っていない人が「どちらとも言えない」と回答しがちなように思うので、その選択肢は悪い方に解釈した方がいいように思います。

(委員)

ここは選択肢の一つとして「興味がない」ということでもいいのではないのでしょうか。

(事務局)

はい、ありがとうございます。実を言うと、先ほどご指摘いただいた部分については、審議会直前に事務局で話をしました。資料はすでに送らせていただいておりますので、この状態で出ささせていただきました。やはり「どちらとも言えない」は付度にもつながると思いますし、回答者の意思が反映されないアンケートになるので、選択肢をなくすか、「興味がない」という選択肢も含めて検討したいと思います。

(会長)

はい、検討していただきたいと思います。他にはございますか。

(委員)

資料1-2の5ページ「問9-2」のA, B, Cのグループで分けていると思いますが、回答する側にはよく意味がわからないと思います。何か一言でもいいので、注釈をつけてあげるといいと思います。

(会長)

はい、お願いします。

(事務局)

はい、ありがとうございます。こちらのグループ分けですが、「何を」「どのように」「どうする」というイメージで考えておりました。確かにぱっと見てわかりにくいと思いますので、その説明を加えさせていただきたいと思います。

(会長)

はい、アンケートの項目について、わからない用語に対する説明、注意書きは、書き方を工夫された方がいいと思います。回答される方が判断に悩むことになると、もったいないので、ご検討いただきたいと思います。

他に何かございますか。

(委員)

細かいところになりますが、小中学生のアンケートにふり仮名がふってあると思いますが、ふってあるところとふっていないところが混在しています。中学生はふり仮名がなくてもすべて読めると思うのですが、小学5年生がどこまで漢字を知っているのかわからないのですが、ここは何か事情があるのでしょうか。

(会長)

はい、お願いします。

(事務局)

説明不足ですみませんでした。小学5年生がどこまで漢字が読めるのか、まだ確認できておりませんので、教育委員会と協議しながら、ふり仮名をふるもの、ふらないものを整理していきたいと思います。確かに、中学生はほぼ読めると思います。実を言うと、小学生、中学生については、内容は変えずに、用紙は分けて郵送しようと考えておりますので、

よろしく申し上げます。ありがとうございます。

(会長)

はい、ご検討ください。他にございますか。

私の方から一つ。市内の小中学生にアンケートをさせていただく学校を環境教育に力を入れている学校に決められています。かなりいい結果が出るのではないかと考えています。客観的に見れば、環境教育に力を入れている学校とそうでない学校の半々の母集団があつて、その比較ができるなら、面白い解析ができると思いますが、そんなに多くの学校にはお願いできないと思いますし、この辺りはいかがでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。確かに、環境教育に力を入れている学校ばかりを対象にアンケートを実施してしまうと、結果に偏りがでてしまうと考えます。各地区にまんべんなくアンケートを送ると言いましたが、その中でも1地区あたり1校を目安に環境教育に比較的力量を入れている学校を対象にする予定です。

(会長)

はい、ありがとうございます。なかなか難しいところだと思えますが、いずれにしても母集団をどうするかに関わってきますので、よろしくお願ひいたします。

他に何かございましたら、お願いします。ご意見は出尽くしましたでしょうか。いろいろな立場からお話を頂戴したいと思っておりますので、事務局側でこの審議会からの意見を参考に再度検討していただければありがたいと思います。

委員の皆様、ありがとうございました。

5 その他

(会長)

それでは「その他」に移ります。まず、事務局から何かございましたら、お願いします。

(事務局)

それでは事務局の方から連絡をさせていただきます。

本年度最後の審議会となります。第4回環境審議会の開催日程ですが、年度末の大変お忙しい時期ではございますが、3月17日から3月27日の間で開催させていただきたいと考えております。日程等が決まりましたら、できるだけ早いうちにご連絡させていただきます。議題は、本日ご審議いただいたアンケート（基礎調査）の集計結果のご報告と、施策体系（骨格）についてご審議をいただく予定です。

また、本日、ご審議いただいたアンケートに関する事について、何かご意見等ござい

ましたら、どんな方法でも構いませんので、12月13日ころまでにご連絡いただけると大変助かります。

(会長)

ありがとうございました。

年度末の3月17日から27日までの間でもう一度開催したいということでございますので、よろしく願いいたします。また、アンケートにつきましては、何かありましたら、早めに事務局の方へご連絡いただければありがたいということでございました。

委員の皆様から何かございますか。よろしいでしょうか。

以上で、議題の審議は終了いたしました。いろいろとご協力いただきありがとうございました。それでは事務局へマイクをお返しいたします。

6 閉会 あいさつ

(事務局)

ありがとうございました。沖会長には円滑な議事進行をいただきまして、ありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして、環境政策部長の佐藤よりご挨拶を申し上げます。

(環境政策部 佐藤部長)

本日は、お忙しい中、皆様お集まりいただきましてありがとうございます。今日の審議の内容は、この10年間の肝となるところでございます。前回の審議会で、進捗状況を説明するときにも、指標の取り方など一番最初がやはり肝心でございます。今回の審議につきましても、事務局が時間をかけて作った割には、なかなか精度が足りていないと思います。ぜひ、皆様方のご意見をいただき、次期計画の基盤となる基礎調査のアンケートを取りまとめて、反映させた環境基本計画にしたいと考えております。1月16日発送という非常にタイトなスケジュールではございますので、今回お渡ししたアンケート内容についてご意見がありましたら、直接ご意見をいただいた方、そして会長に相談させていただいて、決定をしていきたいと思っております。どんな形でも結構でございますので、何かございましたら、ご意見いただければと思っております。審議会があと1回ありますが、そのときには先ほどお伝えしたスケジュールでどんどん進んでいきますので、今回が最後の肝ということで、本当に忌憚のないご意見を頂戴して、可能な限り反映した計画にしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。これで閉会とさせていただきます。お気をつけてお帰りください。

議事録承認

会 長

沖 陽 子 

署名委員

尾崎 安 彦 

署名委員

中 田 美 保 子 